旧二条城跡碑

信長の造った二条城

慢で僭越のほどはなはだしいものがある。予はすで ているのである」。 ておればこそ、予を煩わせはするが、仏僧を放任し フロイスを引見したおり、次のように語ったという。 仏教に対する弾圧を行なったが、宣教師のルイス・ るのが眼についた。織田信長は、比叡山焼討ちなど 大 土城跡を見物したおり、天守へと続く大手道 たが、人民に動揺を与えぬため、また人民に同情し に幾度も彼らをすべて殺害し殲滅しようと思ってい **仏僧は民衆を欺き、己れを偽り、虚言を好み、傲**

教徒は過酷な運命を強いられることとなった。 るぞ、ホトトギス」。かくして信長存命中、多くの仏 もホトトギスは殺される。「さえずるな、殺してくれ こそぎにしようとしたのではない。鳴くのが過ぎて 長に敵対したからだ。決して仏教自体を否定し、根 力宗派が富と権力を蓄え、一大政治勢力となって信 信長がこれほど仏僧を憎んだのは、中世末期の有

のだった。現在の二条城とは全く別物であり、場所 十五代将軍足利義昭のために建設した旧二条城のも 下一・五景から発掘された石垣は、信長が室町幕府 伴う遺跡発掘現場から石垣の一部が見つかった。地 昭和五十年、京都市上京区の地下鉄烏丸線工事に

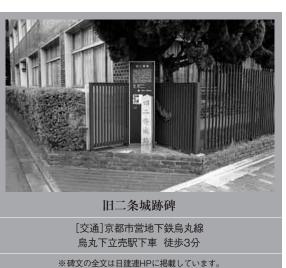
> りから、さらに一本西に入った平安女学院の角に小 んだことにちなんでいる。 利将軍家の屋敷を「二条陣」または「二条城」と呼 四方の敷地に構えられていた。城の名は、歴代の足 さい碑が建てられており、それを中心に約三九○☆ も二条通りではなく、京都御所の西面に沿う烏丸诵

証明された。 された石垣から多数の石仏が見つかったことにより したものを運んできた」。この記述の信憑性は、発掘 なく石の祭壇を破壊し、仏を地上に投げ倒し、粉砕 ばせることを欲したので、少しもその意に背くこと めた。領主の一人は、部下を率い、各寺院から毎日 敬していたので、それは彼らに驚嘆と恐怖を生ぜし 工事場に引かしめた。都の住民はこれらの偶像を畏 たので、信長は多数の石像を倒し、頸に縄をつけて のように記録している。「建築用の石が欠乏してい 定数の石を搬出させた。人々はもっぱら信長を喜 フロイスは著書『日本史』に建設当時の様子を次

きなかったので、信長はなんらの控訴や答弁の余地 し、足利義昭様はたいして早く新邸に移ることがで 森で伐採せねばならないならば、建築は大いに遅延 ここでも仏僧の災難は続いた。「木材を新たに山や ところで石垣の上には、当然屋敷が建築されたが

> 取り壊し、城の中で再建することを命じた」。 もに、あるがままこの寺院のすべての豪華な部屋を を与えず、きわめて巧妙に造られた塗金の屛風とと

師のフロイスは、この記事を「かの傲慢にして悪魔 当時の法華宗は勢力を拡大した武力色の強い教団で 的な寺院の幸いな結末であった」として結んでいる あり、信長にとっては排除すべき存在だった。宣教 犠牲となったのは法華宗の本山六条本圀寺だった。



建設産業図書館東日本建設業保証株式会社

江口知秀 Iomohide Eguchi